

教育長室からのお知らせ No. 84(令和 4 年 7 月)



教育長 田中 広恵

7月になりました。早々に梅雨が明け、本格的な夏の到来です。体が暑さに慣れるまでは、のどの渇きを感じる前にこまめな水分補給を行うなど、熱中症に十分注意しましょう。

学校では、タブレット活用等により、子どもたちにこれからの時代に必要な学力を身につけるべく指導を進めるとともに、豊かな心も育めるように努めています。新型コロナウイルスによる県外移動などの制限を受けない3年ぶりの夏休みがやってきます。直接体験することでしか得られない感動や学びがありますので、子どもたちには、外へ出て様々なものを見る、触れる、感じるなど、夏休みならではの豊かな体験をしてほしいと願っています。

一方、危惧されるのは事故や事件との遭遇です。久しぶりのプールや海、山では、気持ちが高ぶりすぎて危険な場面に陥らないよう、注意が必要です。開放的な気分になると自制心が甘くなりますし、自身が気をつけていても巻き込まれる可能性もあります。園・学校では、子どもたちへの安全指導の徹底に努めております。保護者・地域の皆様のご協力をお願いいたします。

各園・学校では、毎年7月と12月に保護者アンケート等を実施し、その結果を踏まえて学校評価を行い、園・学校経営の組織的・継続的な改善につなげています。年に複数回行うのは、教育活動の途上で所期の目的を達成しつつあるかを確認し軌道修正することが学校改善の活性化につながると考えるからです。また、本市教育委員会では、学校の自己評価に加え、学校運営協議会による評価の公表を規定しており、この点からも社会に開かれた学校づくりを推進しています。本市の学校における学校評価の利活用の視点や具体例を紹介します。

ある中学校では、教育活動について適切に説明責任を果たし、保護者や地域の理解と協力を得るために、学校評価を活用しています。学校では、教育を取り巻く環境の変化によって、教育活動の形を柔軟に変えていかなければなりません。しかし、新たな取組や大きな方向転換は、すぐに理解されるものではなく、繰り返し、丁寧に説明をする必要があります。そこで、学校評価の結果を踏まえて、「保護者や地域の方はどこに不安を感じているのか」「何が伝わっていないのか」を明確にし、重点を置いた丁寧な説明によって、保護者や地域の方の理解を求め、教育活動の充実を図っています。

ある小学校では、保護者や児童へのアンケート、学力テストや新体力テストの結果を比較・分析し、児童の実態を総合的かつ客観的に捉えるように努めています。そして、これらの分析をもとに、部会や職員会議において、重点目標に関する課題を共有し、その改善策を検討し、実施しています。例えば、「健やかな体」の重点目標「楽しさや喜びを重視した体力向上」に関しては、評価結果分析から「進んで体を動かすこと」や「調整力」に課題があることがわかりました。そこで、校庭に、新たにラダー（はしごのような形をしたトレーニング用品）を設置し、子どもたちが休み時間に手軽に楽しく跳・走の運動に親しめるようにしました。また、9月中には、自己評価結果を文書とホームページで公開するとともに、学校運営協議会において、学校の課題と改善策について説明し評価をいただいています。年度途中に迅速に改善策を公表・説明することで、保護者や地域からの学校への期待や信頼が高まっています。

学校評価に関する一連のプロセスを、教職員の「気づき」（意識改革）と「対話」（同僚性の向上）による組織力強化の観点からも活用してまいります。